

令和元年度 学校評価シート

[資料2]前期

<学校経営方針の重点>

青梅市立吹上小学校

1 確かな学力の向上 2 心の教育の推進 3 健やかな体の育成 4 地域と共に歩む学校づくり

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策 (対応する学校経営案プロット)	評価(A,B,C,Dは%) 平均はA=4,B=3,C=2,D=1で算出			分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性				
				教職員	保護者	児童			担当	コメント					
1	基礎・基本を大切に、分かる授業を実現する。	学習規律の徹底と基礎的・基本的な知識・技能の習得させるきめ細やかな指導の実施	学習規律を徹底し、落ち着いた学習環境の下で、一人一人の児童の学習意欲を高め、個に応じた指導により学力の向上を図る。	A	0.0	37.6	48.5	教職員、保護者、児童とも概ね評価は高い。しかし、1割程度C,D評価なので、改善していく必要がある。	引き続き、落ち着いた学習環境の下で、一人一人の児童の学習意欲を高め、個に応じた指導を継続する。	教務					
				B	78.9	55.6	41.2								
				C	21.1	5.8	6.5								
				D	0.0	1.1	3.8								
			平均	2.8	3.3	3.3									
			重要教科を国語と算数に定め、授業改善プランを活用し、基礎学力と学び合う力を育て、より広い応用力を付ける取組を実践する。	A	0.0	40.7	(設問なし)	学習への取組が保護者の方へ伝わっている結果ではないか。教員は、子供たちへの伸びしろがまだまだあると考え、更なる改善が見込まれる。	読解力、文章を読み込む力が、今後更に必要になる。5年生の学力調査の問題形式・傾向を全教員が把握することが重要。	研究					
				B	57.9	56.1									
				C	42.1	2.6									
				D	0.0	0.5									
			平均	2.6	3.4										
			学年の発達段階を考慮した学習課題(宿題)を出し、学ぶ意欲を高めるとともに「学年×10分」の家庭学習を奨励し、その習慣化を図る。	A	5.3	37.2	57.3	教職員、保護者、児童とも概ね評価は高い。しかし、1～2割程度C,D評価なので、改善していく必要がある。	家庭学習の仕方や質について折にふれて指導する。保護者会等も活用し、保護者への啓発も行う。家庭学習の質や量について、教員間で情報交換を行う。また、自主学習を学年に応じて行うように促していく。	教務					
				B	84.2	50.5	32.7								
C	10.5	10.1		6.5											
D	0.0	2.1		3.5											
平均	2.9	3.2	3.4												
2	思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する。	人権尊重の精神に則り人権教育の実践の充実を図るとともに、基本的な生活習慣を養い、社会規範遵守の意識を育てる。	「気持ちの良い挨拶」や「相手を思いやる言葉遣い」ができるように指導するとともに、異年齢集団活動を通して、いじめゼロに向けた好ましい人間関係を育てる	A	0.0	35.1	37.2	保護者、児童はAB評価が多く、評価が高い。教員はC評価が増えた。教員の期待値が高く、指導に関して課題意識があると思われる。	日頃から教員側からの子供との挨拶を含めた対話を心掛ける。児童との関係作りを行っていく。全校朝会や日頃の学級指導の中で、挨拶や言葉遣いについて継続的に指導していく。	生活指導					
				B	42.1	53.9	44.4								
				C	57.9	9.9	16.1								
				D	0.0	1.0	2.3								
			平均	2.4	3.2	3.2									
			生活指導月目標の周知や学校生活の約束等の指導を通して、ルールやマナーを遵守しようとする態度を育てる。	A	10.5	39.6	36.0	全体的に評価が高い。保護者のAB評価が高く、わが子はきまりを守っているという認識であることがうかがえる。CD評価については、学校全体の意識を高めたいという思いがあると考えられる。	全校朝会や日常の学級指導などで継続的に指導していく。学校全体で情報共有を積極的に行い、指導の足並みをそろえる。	生活指導					
				B	84.2	50.8	49.0								
				C	5.3	9.6	11.1								
				D	0.0	0.0	3.8								
			平均	3.1	3.3	3.2									
			日々の道徳の授業の目標を明確にし、「特別の教科・道徳」の時間を工夫し、子供自身が自らを見つめ直すことができるようにする。	A	0.0	38.0	53.3	1年間の道徳授業の研究の成果は、児童・保護者にも概ね伝わり、上昇傾向にある。教職員は、児童を更に伸ばしていきたい、改善点があると捉えている。	教員同士で、授業を見合い、授業の引き出しを増やしていく努力が必要。児童のD評価を今後どう捉えていくか。D評価をつけた児童を把握し、個別指導を行う。	研究					
				B	83.3	53.5	36.8								
C	16.7	8.6		6.1											
D	0.0	0.0		3.8											
平均	2.8	3.3	3.4												
3	安全・安心な環境を作り、心身ともに健康な体を育成する。	自ら運動に親しむ態度を養い、望ましい食習慣など心身共に健康な体を育てる。	集団行動やマラソン・縄跳びなどの運動に粘り強く取り組ませ、決まりのある行動や基礎体力を身に付け、健康でじょうぶな体作りに取り組む力を育てる。	A	5.3	36.2	55.9	1学期に行進練習・ラジオ体操をすることにより、体力や健康の意識を高めるだけでなく、集団行動や規律面でも意識させることができていると考える。体育集会ではICTを活用し、ポイントをわかりやすく伝えることで正しい身体の使い方を指導し、身体づくりに取り組む力を育んでいる。	引き続き、体育集会や授業を通して健康の増進・体力の向上について意識を高めしていく。2学期以降もなわとび週間・マラソン週間の際に児童の興味を高められるような体育集会にする。	体育的活動					
				B	78.9	56.9	27.6								
				C	15.8	6.9	11.5								
				D	0.0	0.0	5.0								
			平均	2.9	3.3	3.3									
			生活の見直しや食に関する指導及び安全指導(避難訓練を含む)を推進し、健康の保持増進と安全に対する意識を高める。	A	0.0	41.1	(設問なし)	教員はおおむね評価は高い。保護者のCD評価は給食指導についての意見があると思われる。	色んな強化領域と関連付けて、食育の指導に取り組む。給食の時間などに食への関心が高まる働きかけをしていく。給食についての共通理解を図る。	生活指導					
				B	100.0	52.1									
				C	0.0	6.3									
				D	0.0	0.5									
			平均	3.0	3.3										
			4	特別支援教育について組織的に取り組み、充実を図る。	特別支援教育に関する研修会を通して、特別支援教育について共通理解を図り、組織的に取り組んでいく。	あおぞら学級と通常学級の児童間・教師間の交流や連携、ひまわり教室との連携を図り、障害に関する理解を深め、偏見や差別のない人間関係を育てる。	A	0.0	41.1	62.2	あおぞらやひまわりと通常学級との連携や交流の体制が整っていないため、教員のA評価が少ないと考えられる。保護者や児童は、前年同様偏見や差別のない人間関係を作れていると感じている割合が多い。	昨年度同様、行事などを通じて交流するとともに、授業や給食などでも交流する機会が設けられるようにする。	教育相談		
							B	42.1	46.3	29.0					
C	57.9	8.4					6.1								
D	0.0	1.1					2.7								
平均	2.4	3.2				3.5									
学校全体で特別支援教育について共通理解を図るとともに、家庭・地域へ向けて特別支援に対する理解向上に努める。	A	5.3				39.5	(設問なし)	教員、保護者ともにA・Bの評価が昨年度より高くなっている。保護者への特別支援教育へのアプローチが進んでいるため、評価が上がったと考えられる。	引き続き、担任一人で抱えることのないように、養護教諭や特別支援教育専門員などを通じて理解を深めていく。保護者に対しては、昨年度同様に情報共有を図っていく。	教育相談					
	B	63.2				42.1									
	C	31.6				14.7									
	D	0.0				1.1									
平均	2.7	3.1													
5	学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる。	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。				学校行事・学校公開・学校便り・ホームページ等で学校の情報や教育活動の様子を発信し、開かれた学校づくりに努めている。	A	10.5	43.2	(設問なし)	教員、保護者ともにAB評価は昨年度と変わらず、おおむね良いと思われる。ホームページの更新回数を増やしたが、そのことが保護者に伝わっていない可能性がある。	学校便りや学級通信等で情報発信を継続して行っていく。ホームページの更新について学校便り等で発信していく。	情報・視聴覚		
							B	68.4	51.1						
			C	21.1	4.2										
			D	0.0	1.1										
			平均	2.9	3.4										
			地域や外部の魅力ある力を積極的に取り入れ、地域の自然・文化・産業についての理解を深める活動を推進する。	A	5.3	44.2	(設問なし)	保護者には引き続き概ね高い評価をいただいた。外部人材を取り入れた場面が多かったため教員側評価も上がったと考えられる。	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域や外部の人材の活用については、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に来ていただけるようにする。	学びと心					
				B	57.9	46.3									
				C	36.8	7.9									
				D	0.0	0.0									
			平均	2.7	3.3										